



普通高等教育“十五”国家级规划教材

新大学日语

阅读与写作

总主编 陈俊森
主 编 陈百海

3



高等教育出版社

1200412738

福州大学
图书馆藏书章



普通高等教育“十五”国家级规划教材

新大学日语

阅读与写作



1200412738

总主编 陈俊森

主 编 陈百海

编 者 谷玲怡

李占山

祝玉深

吉田美登利



H36

002



高等教育出版社

图书在版编目(CIP)数据

新大学日语阅读与写作.3/陈俊森主编. —北京:
高等教育出版社,2003.8

ISBN 7-04-012140-9

I.新… II.陈… III.①日语-阅读教学-高等学校-教材②日语-写作-高等学校-教材 IV.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 045293 号

出版发行 高等教育出版社

社 址 北京市西城区德外大街 4 号

邮政编码 100011

总 机 010-82028899

购书热线 010-64054588

免费咨询 800-810-0598

网 址 <http://www.hep.edu.cn>

<http://www.hep.com.cn>

经 销 新华书店北京发行所

印 刷 北京人卫印刷厂

开 本 850×1168 1/16

印 张 16

字 数 390 000

版 次 2003 年 8 月第 1 版

印 次 2003 年 12 月第 2 次印刷

定 价 24.80 元

本书如有缺页、倒页、脱页等质量问题,请到所购图书销售部门联系调换。

版权所有 侵权必究

《新大学日语》系列教材编写委员会

陈俊森 顾明耀 祝大鸣 翟东娜 赵刚

陈百海 吴侃 侯仁锋 徐曙 陈薇

顾问 北原保雄 (日本筑波大学 校长 教授)

顾明耀 (西安交通大学、日本广岛女子大学 教授)

西村よしみ (日本筑波大学 教授)

砂川有里子 (日本筑波大学 教授)

山田泉 (日本大阪大学 教授)

主审 田忠魁 (黑龙江大学 教授)

总主编 陈俊森 (华中科技大学 教授)

总策划 祝大鸣 (高等教育出版社 编审)

各册主编 翟东娜 (北京师范大学 教授)

赵刚 (西安交通大学 教授)

陈百海 (黑龙江大学 教授)

吴侃 (同济大学 教授)

侯仁锋 (第四军医大学 教授)

徐曙 (同济大学 副教授)

前言

一、编写背景

《大学日语教学大纲》1989年出版后对我国的大学日语教育起到了积极的指导作用和推动作用,至今已10余年。高等学校大学外语教学指导委员会日语组在总结了10余年来执行该大纲的经验之后,对其词汇表作了全面的修订,同时对正文和附表中的个别叙述也作了适当的调整。修订后的《大学日语教学大纲》(第二版)已于2000年4月经教育部批准颁发,并开始执行。

按照原《大学日语教学大纲》编写的《大学日语》系列教材(顾明耀、徐祖琼主编),在贯彻执行《大学日语教学大纲》,提高大学日语教学水平,推动我国大学日语教育事业方面发挥了重大作用,并受到全国广大日语教师和同学的普遍欢迎。随着《大学日语教学大纲》(第二版)的颁布,中国的大学日语教学改革也迈上了一个新的台阶。新的世纪呼唤着新的教材,教学改革也要求有新的教材与之配合。为此高等学校大学外语教学指导委员会日语组决定,组织全国重点大学的专家教授和具有广泛代表性的院校的优秀教师,编写新的大学日语教材。《新大学日语》系列教材就是在这种形势下诞生的。

本系列教材在编写设计之前,广泛、认真地听取了全国诸多院校师生的意见,尤其是长期使用《大学日语》教材教师的意见,并于2000年全国大学日语教学研讨会上,在宣传贯彻新大纲的同时,组织各地代表对新教材的编写进行了认真的研讨。概括起来,与会教师对新教材提出了以下希望和建议:在培养日语交际能力方面要有所创新;在难度和分量上要有所控制,不宜超过中级程度;素材要有时代感、趣味性、实用性;考虑到当前外语教学课时减少的现状,阅读量可适当减少;在教材的构成上,读写与听说最好分开成册,听说内容应有所增加;教材应与大学日语四级考试密切配合,兼顾其他各类日语考试;单词的释义使用日语,以培养学生用日语思考的能力;在版式设计、图片使用、印刷、用纸等方面,要上档次、有美感等等。对这些建议,我们在编写这套教材时都已尽量予以考虑。

二、编写原则

1. 充分体现《大学日语教学大纲》(第二版)的精神和要求,既强调打好基础,又重视语言运用能力的培养;既考虑教材的实用性,也充分考虑到素质教育的需要;

2. 在充分吸收《大学日语》教材编写经验的基础上,采纳国内外新的外语教学理论,力求做到内容一新、结构一新、设计一新;

3. 语言知识的学习重点放在词汇与句型上,语言运用能力的培养以大纲中的“功能意念表”和“语言技能表”为主;

4. 选择、编写纯正、地道的日语文章、例句,同时注意文字优美、风格多样;

5. 既注重日本的社会、文化背景,也注重中国的社会、文化背景,同时考虑国际文化的大视野;

6. 在注意与大学日语四级考试衔接的同时, 兼顾其他各类日语考试;

7. 为教师和学习者着想, 在编写教材的同时, 编写出简明、实用的教学参考书。并注意使本教材既作为大学日语的主干教材, 也能兼顾其他学习者的学习需求。

三、教材构成

本套教材共 10 册, 其构成如下:

新大学日语 阅读与写作 1~4;

新大学日语 阅读与写作教学参考书 1(1、2 册合订本)、2(3、4 册合订本);

新大学日语 听力与会话 1、2;

新大学日语 听力与会话教学参考书 1、2。

《阅读与写作》每册由 10 课组成, 教学时间为 40~44 学时。每课由课文、生词、注释、词语用法、表达方式与句型、练习、阅读等部分构成。课文的题材广泛, 体裁多样, 既有反映时代脉搏的文章, 也有传统文化的佳作; 既有年轻人感兴趣的话题, 也有思想内涵丰富的作品。每课的阅读部分配有两篇短文, 内容大多与课文有所关联。每册教材安排了 3 个附录: 附录 1 为两套自测题, 难度与本册相当, 题型与大学日语四级考试有相当的关联性。附录 2 为总词汇表、词语用法和表达与句型索引。附录 3 为两首日文歌曲。

《阅读与写作教学参考书》对应于各册教材, 每册主要内容有: 教学重点与学时分配、课文内容提要、背景知识、“词语用法”例句翻译与注释、“表达与句型”例句翻译与注释、语法学习、近义词辨析、近义表达方式、篇章法指导、写作指导、练习答案、课文及阅读材料译文。

《听力与会话》每册由 15 课组成, 教学时间为两学期共 40~44 学时。每课分为 4 个部分。Part1 有听音跟读和听简短会话, 这部分以训练大纲规定的听说技能为主。Part2 安排一篇 10~15 句左右的会话, 会话内容均根据《阅读与写作》相应课的课文或阅读文编写而成, 通过内容、词汇、句型的关联, 提高口语表达的熟练程度。Part3 分为两个部分: 第一部分是 10 个较短的会话, 每段会话为一道题, 要求听会话回答问题或复述内容; 第二部分是一段较长的会话, 配有 3~4 道题。这部分除了训练听说技能之外, 更着力于大纲所要求的交际能力的培养, 因而对大纲规定的功能、意念项目作了全面的安排。Part4 是一篇几百字的会话, 要求听录音填空或做笔记, 写出大意后, 口头讲述大意, Part 4 是听说的综合训练。每册教材后附有两套自测题和总词汇表。难度与本册相当, 题型与大学日语四级考试有相当的关联性。

《听力与会话教学参考书》也分别对应于各册教材, 每册的主要内容有: 听力指导、会话指导、听力材料、语法与注释、答案等。

四、鸣 谢

为了保证本套教材的编写质量, 我们特聘请原大学外语教学指导委员会副主任委员、西安交通大学教授兼广岛女子大学教授顾明耀作为中方顾问, 聘请日本筑波大学校长、著名语言学家北原保雄教授以及筑波大学西村よしみ教授、砂川有里子教授、大阪大学山田泉教授为日方顾问。聘请原大学外

语教学指导委员会委员、日语组副组长、黑龙江大学田忠魁教授为主审人。顾明耀教授在百忙之中对设计思想、编写大纲以及编写过程中的细节问题都给予了细致的指导和无私的帮助；北原保雄教授亲自为教材撰写课文，使教材生辉；西村よしみ教授、砂川有里子教授、山田泉教授对教材、教参中的日文部分仔细审阅，提出了宝贵的修改意见，同时对教材编写的宏观问题也提出了不少建设性的意见。田忠魁教授在对各册教材进行总体把关和审查的同时还对许多细节提出了积极的建议。各位顾问和主审人的辛勤工作在这套教材中结下了丰硕的成果，在此对他们为我国大学日语教育所做的贡献表示衷心的感谢。

本套教材在设计和编写过程中，得到许多高等院校教师和领导的帮助和指导，许多教师为教材提出了很好的意见和建议。初稿完成后，曾多次征求有关院校教师的意见，并得到了他们的帮助和支持，谨表示衷心的感谢。

在教材编写过程中，我们与每篇文章的作者和出版社都进行了联系。对那些慷慨授予我们版权使用权的作者和出版社，谨表示衷心的感谢。

日本国际交流基金会对本教材的编写、出版给予了大力的支持与帮助，并提供了“日本语教材制作助成”项目的资助。日本国际文化フォーラム在著作权等方面予以很大的帮助和支持。谨在此一并表示衷心的感谢。

高等教育出版社的编辑们在教材的策划、编写、版式设计、插图选配等方面做了大量工作，谨表示衷心的感谢。

编写日语教材是一项系统工程，是一项很重要的科研活动，个中艰辛只有编写过教材的老师才能有所体会。虽然我们竭尽全力，希望编出一套令老师和学生都满意的好教材，但是还存在一些不尽如人意的地方，希望使用本教材的老师 and 同学提出批评意见，以便我们不断修订完善。

《新大学日语》系列教材编写委员会

2003 年 3 月

本册使用说明

本册教材是《新大学日语 阅读与写作》的第3册,适用于大学日语的第三级教学。

一、本册的结构及使用说明

本册教材由正文和附录构成。

1. 正文

正文由10课构成,课文题材、体裁多样,内容生动活泼。

2. 附录

附录1为2套模拟试题,题型同大学日语四级考试,包括文字和词汇、语法构句、阅读理解三部分,难度与本册内容相同。附录2为词汇索引、词语用法索引、表达与句型索引。附录3为两首日本歌曲。

二、各课的内容及使用说明

1. 重点提示

提示本课的学习重点,内容包括两个关于课文主旨或大意理解问题的设问。

2. 课文

课文是本课的主题内容,是本课的学习重点,通过课文的讲授,丰富学生的语言知识,提高学生的阅读理解能力。

3. 单词

单词是每课新出现的词语,按照课文、词语用法、表达方式与句型及练习4部分的顺序分开排列。

单词的释义限于本课课文的词义和常用词义。单词的声调、词性及释义依据《新明解国語辞典》《广辞苑》等词典,用日语解释词义,力求简明扼要。

按照《大学日语教学大纲》(第二版)的“词汇表”对单词中的四级词汇进行了标注,词条前标有*号者为四级词,词条前无标记符号者为纲外词。

本书的词性略语如下:

[名]——名词

[代]——代词

[他五]——五段他动词

[自五]——五段自动词

[他下一]——下一段他动词

[他上一]——上一段他动词

[自下一]——下一段自动词

[自上一]——上一段自动词

[他サ]——サ变他动词

[自サ]——サ变自动词

[形]——形容词

[形動]——形容动词

[副]——副词

[連体詞]——连体词

[接]——接续词

[感]——感叹词

[接尾]——后缀

[接頭]——前缀

[助数]——量词

[連語]——词组

4. 注释

对课文中出现的语言点和专有名词加以注释。

5. 词语用法

主要包括课文中难以掌握的接续词、副词、重要名词、动词以及惯用句的用例，各课分别有 5~10 个词语，每个词语有 3~5 个用例。

6. 表达方式与句型

每课列举课文中新出现的重要的表达方式与句型 5 个，每个表达方式与句型有 3~5 个用例。并对其接续特点、使用条件和表示的意义进行解释。

7. 练习

练习紧紧围绕打好语言基础、提高运用能力这一中心任务展开。既可作为课堂教学的补充，又可作为课外作业。

课文内容的问答题围绕课文的阅读理解设问，以便于展开课堂讨论。语言点练习和翻译练习围绕词语用法、表达方式与句型设问。

作文练习的话题与课文主题相对统一，并对文章结构、关联词语、关联句型进行提示。

每课练习都有一篇作文，形式多样，目的在于提高学生的写作能力。

8. 阅读

阅读有 2 篇短文。阅读 1 为书面回答问题。题型有选择题、填空题、记述题等。设问主要围绕明确指代内容、理解句间关系、捕捉主要论点、归纳中心思想等内容展开。阅读 1 可安排为课后作业。阅读 2 为口头回答问题。设问注重内容的理解和展开，便于课堂讨论。

9. 附加材料

每课设立课外学习专栏，内容包括与课文话题相关的短文和谚语，以便扩大学生的知识面，加深对日本社会和文化的理解。

三、教学安排

本册教材的教学时间为 40~44 学时，其中每课教学时间为 4 学时。

课文、单词、词语用法、表达方式和句型为教学的重点内容。练习、阅读、附加材料是教学的辅助内容，可根据不同情况将部分辅助教学内容安排在课外学习和练习。

目 録



第1課

- 本 文 デマエと消費者 1
言葉の使い方 7
表現と文型 9
練習問題 11
チャレンジ1 都市美と自動販売機 15
チャレンジ2 お金を払えば神様ですか 17
コラム 知っておきたいアルファベット語 18
今週の一句 人間は金銭を相手に暮らすのではない 19



第2課

- 本 文 日本の年中行事 20
言葉の使い方 24
表現と文型 26
練習問題 29
チャレンジ1 節分 34
チャレンジ2 日本における贈答の習慣 36
コラム 日本の主な祝祭日 37
今週の一句 郷に入っては郷に従え 38



第3課

- 本 文 失敗 39
言葉の使い方 43
表現と文型 45
練習問題 47
チャレンジ1 偽札 51
チャレンジ2 ありそうな話 53
コラム 世界の名作の対訳 55
今週の一句 正直は一生の宝物 55



第4課

本文 年々広がるボランティアの輪 56

言葉の使い方 61

表現と文型 63

練習問題 66

チャレンジ1 感動したお礼のハガキ 71

チャレンジ2 他人のためだけでなく自分のため 74

コラム こちらこそサンキュウ 76

今週の一句 天は自ら助くる者を助く 76



第5課

本文 失われた子どもの三「間」 77

言葉の使い方 82

表現と文型 84

練習問題 86

チャレンジ1 子供はどこで遊んでいるのか? 92

チャレンジ2 子供がフォアグラになる 94

コラム 早口ことば 96

今週の一句 多芸は無芸 96



第6課

本文 動物はなぜ多産なのか 97

言葉の使い方 101

表現と文型 103

練習問題 106

チャレンジ1 原子力潜水艦はイルカがモデル 111

チャレンジ2 誤解されたアフリカ水牛 113

コラム 化石とは何ですか? 115

今週の一句 人間は道具を使う動物である 115



第7課

本 文 インターネットショッピング 116

言葉の使い方 121

表現と文型 123

練習問題 125

チャレンジ1 情報化社会 130

チャレンジ2 カード破産 132

コラム 世界一短い手紙 134

今週の一句 安物買いの銭失い 134



第8課

本 文 現代人の「福祿寿」 135

言葉の使い方 140

表現と文型 142

練習問題 144

チャレンジ1 変わる専業主婦 148

チャレンジ2 主婦のタクシードライバー 150

コラム コロンブスの卵 152

今週の一句 最大多数の最大幸福こそ道徳と法律の基礎である 152



第9課

本 文 子供の夢はプロ選手 153

言葉の使い方 158

表現と文型 160

練習問題 162

チャレンジ1 聖火リレー 168

チャレンジ2 プロ No. 1 の日吉さんをご紹介します 170

コラム 柔道 172

今週の一句 好きこそものの上手なれ 172



第 10 課

本 文 循環型社会元年 173

言葉の使い方 179

表現と文型 181

練習問題 183

チャレンジ1 物質文明の光と陰 188

チャレンジ2 持ち箸派 191

コラム 我が家のゴミ減量実践 192

今週の一句 災害は忘れたころにやってくる 193

附 录 1

模擬テスト1 194

模擬テスト2 203

附 录 2

単語索引 212

言葉の使い方索引 228

表現と文型索引 230

附 录 3

日本の歌 231

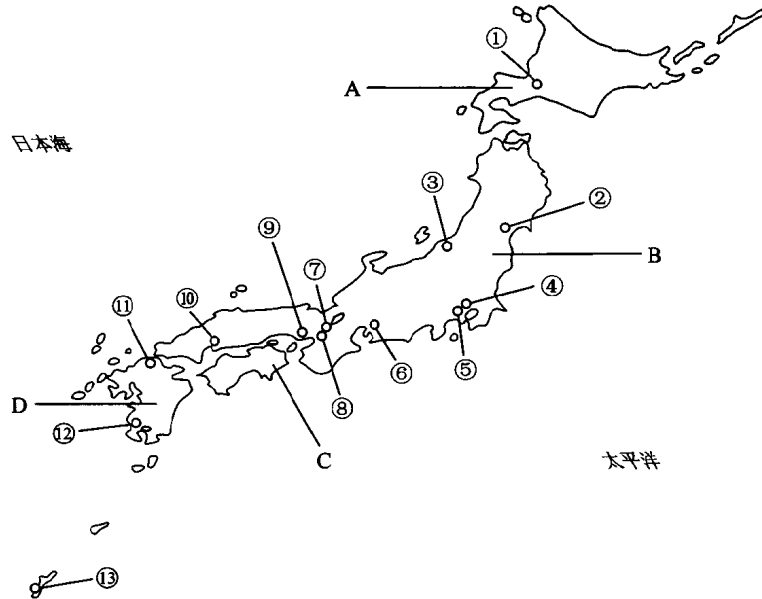
1、未来へ

2、川の流れのように

7. 次の地図について、阪神と淡路地区を○で囲みなさい。そして、A～Dの四つの大きな島の名称を後の（ ）の中から選び、①～⑬の主な都市名を、後の（ ）の中から選びなさい。

A B C D (本州、九州、四国、北海道)

①～⑬ (東京 大阪 横浜 名古屋 神戸 京都 広島 新潟 札幌 福岡 鹿児島 那覇 仙台)



8. 次の文の後半の部分を補って、文を完成させなさい。

(1) あの店は安いといえば安いかもしれないけど、_____。

(2) 冷蔵庫、電子レンジというふうに、今私たちの家には、_____。

(3) 店員はお客に対して、丁寧な言葉遣いをすることが_____。

(4) 海外旅行をするには、_____。

(5) 色といいデザインといい、_____。

9. 次の中国語を日本語に訳しなさい。

(1) 去年为了救助饥饿的孩子，他参加海外志愿队去了非洲。(飢饉・見舞われる)



ている人々は、なぜか、あまりデマエを好まない。彼らの家庭はデマエのテンヤもので客をもてなすことを失礼な接待だと考えている。

したがって、デマエを日常的なものと考えているのは、上層の日本人よりも、むしろ中流の日本人である場合が多い。

- 5 この国では、自宅から一步も外に出ないで生活するという、ハワード・ヒューズのような人生が、一庶民でも可能である。

ヨーロッパやアメリカでも、もちろん可能ではあるが、それはあくまでもケタ外れの資産家にのみ可能なのであって、日本のように一般的なものではありません。

- 10 配達制度で、欧米先進国に現存しているものは、せいぜいミルクと郵便ぐらいであって、昨今は牛乳配達さえ崩れつつある国も少なくない。

それが日本では、ミルク、郵便はもとより、新聞、洗濯、デパート、医師、米、酒、食品など、ありとあらゆるものが玄関に現れる。

それはもう信じ難いほどのサービスである。

- 15 欧米の人間が、いちいち街に出て買い求める品物が、日本では配達料抜きですべて玄関にまで届けられるのである。便利といって、これほど便利なことはない。

ところが、当のサービスを受けている日本の「消費者」たちは、いっこうに有難がっている風がない。それどころか、ミルクが値上げされたり、新聞が値上げされたりすると、国中に「ブー、ブー」という声があがる。

- 20 デパートや酒屋が配達を断ったら、たちまち客を失ってしまう。医師が往診を断ると、人道問題だと新聞までが一緒になって叩く。

だから、この国では、配達可能、出張可能なものは、すべて玄関までという制度が崩れない。配達用のトラック、スクーター、往診用の乗用車、マッサージ師の出張用自動車などは、もしかすると、交通渋滞の一因をなしているのではないかと思えるほどだ。

- 25 海外の支店で二年なり三年なり暮らしてきた日本人商社員は、日本に帰ってくると、月給の額面が激減するにもかかわらず、生活そのものはやはり日本が便利だという。それはそうだろう。日本のようなデマエ全盛の国は世界中どこを捜してもないのだから……。

- 30 しかし、このデマエ全盛の状況を冷静に見つめてみると、この制度が、今日のインフレのかなり大きな要因になっていはいはしないかということに気付く。いや、逆に、デマエ（配達、往診も含めて）を廃止すれば、かなりコストが安くなるとい

うことは確実に言える。その最たるものは新聞料金や牛乳の料金であり、医療の料金であろう。

街頭で一部売りをしている新聞と、各家庭に配達されている新聞が同一の料金だということが、すでにおかしい。牛乳もしかり、米もしかり、クリーニングも

5 しかりである。

アメリカのように人件費の高い国では、郵便切手のような公共料金の範疇に入るものさえ、郵便局に行って買えば、額面通りの値段だが、自動販売機で買うと、額面より高い。なぜなら客は自動販売機の使用料を負担しなければならないからである。

(『不思議の国ニッポン Vol.1 在日フランス人の眼』 角川文庫 一部省略)

単語リスト 1

1. デマエ (出前) ①	[名・自サ]	料理を調理して注文された家に届けること。 また、その料理。
2. 消費者 (しょうひしゃ) ③	[名]	物資を消費する人。商品を買う人。
3. *なぜなら ①	[接]	前に述べたことの原因・理由を説明する時に用いる。なぜかというと。
4. 食生活 (しょくせいかつ) ③	[名]	日常生活のうちで、毎日の食事に関係のある面。
5. 最大 (さいだい) ①	[名]	最も大きいこと。
6. *寿司 (すし) ②	[名]	酢で味付けした飯に刺身や卵焼き、海苔などをあしらった食べ物。
7. *蕎麦 (そば) ①	[名]	ソバの実の中に入っている白い粒を粉にしたものを水でこねて延ばし、細長く切った食品。
8. *ラーメン ①	[名]	中華そばの、料理としての称。
9. *洋食 (ようしょく) ①	[名]	欧米風の材料・調理法による料理。
10. ランプ ①	[名]	石油を燃料とする、西洋風の明かり。
11. *オフィス ①	[名]	会社・役所などの事務所 (室)。
12. 亭主族 (ていしゅぞく) ③	[名]	世の中の夫達。
13. 福音 (ふくいん) ①	[名]	喜ばしい知らせ。

- | | | |
|-------------------|--------|--|
| 14. もたらす ③ | [他五] | 持って来る(行く)。多くは抽象的な物事について言う。 |
| 15. *主婦(しゅふ) ① | [名] | 一家の主人の妻で、家族が気持ちよく元気に仕事が出来るように生活環境を整え、食事などの世話を中心になってする婦人。 |
| 16. *省く(はぶく) ② | [他五] | なにか工夫をして、時間・労力・費用などを切り詰める。 |
| 17. *交際(こうさい) ① | [名・自サ] | 人と付き合うこと。 |
| 18. *比較的(ひかくてき) ① | [副] | 他の種類のものと比べて、割合に。 |
| 19. *人々(ひとびと) ② | [名] | 多くの人。めいめいの人。 |
| 20. 店屋物(テンヤもの) ① | [名] | 店屋の品物。特に、飲食店から取り寄せる食物を言う。 |
| 21. 接待(せったい) ① | [名・他サ] | 客をもてなすこと。 |
| 22. もてなす(持て成す) ③ | [他五] | ご馳走する。 |
| 23. *したがって ① | [接] | それだから。それゆえに。 |
| 24. 上層(じょうそう) ① | [名] | 上の階層。 |
| 25. 中流(ちゅうりゅう) ① | [名] | 収入が中ぐらいの階層。 |
| 26. *自宅(じたく) ① | [名] | 自分の家。うち。 |
| 27. 一步(いっぽ) ① | [名] | ひとあし。わずかな距離や事柄にたとえて言う。 |
| 28. 庶民(しょみん) ① | [名] | 一般の人たち。 |
| 29. *ヨーロッパ ③ | [名] | 六大州(大陸)の一つ、欧州。 |
| 30. *アメリカ ① | [名] | アメリカ合衆国。(美国) |
| 31. *桁(ケタ) ① | [名] | (家屋・橋などで)柱と柱を結ぶように渡して、その上に構築する物のささえとする材(木)。数の位。 |
| 32. ケタ外れ(けたはずれ) ③ | [名・形動] | 比較にならないほどひどく違うこと。 |
| 33. 資産家(しさんか) ① | [名] | 財産を多く持っている人。 |
| 34. あり得る(ありうる) ③ | [自下二] | ある可能性がある。あるはずである。
(否定形は「ありえない」) |
| 35. 先進国(せんしんこく) ③ | [名] | 経済や文化の面で比較的進歩した国。 |
| 36. *せいぜい ① | [副] | 一番多いと考えても。多くとも。 |
| 37. 昨今(さっこん) ① | [名] | 昨日、今日というようなごく最近の過去のこと。
最近。 |
| 38. もとより ① | [副] | 言うまでもなく。もちろん。 |